

羽曳野市公共施設等総合管理計画

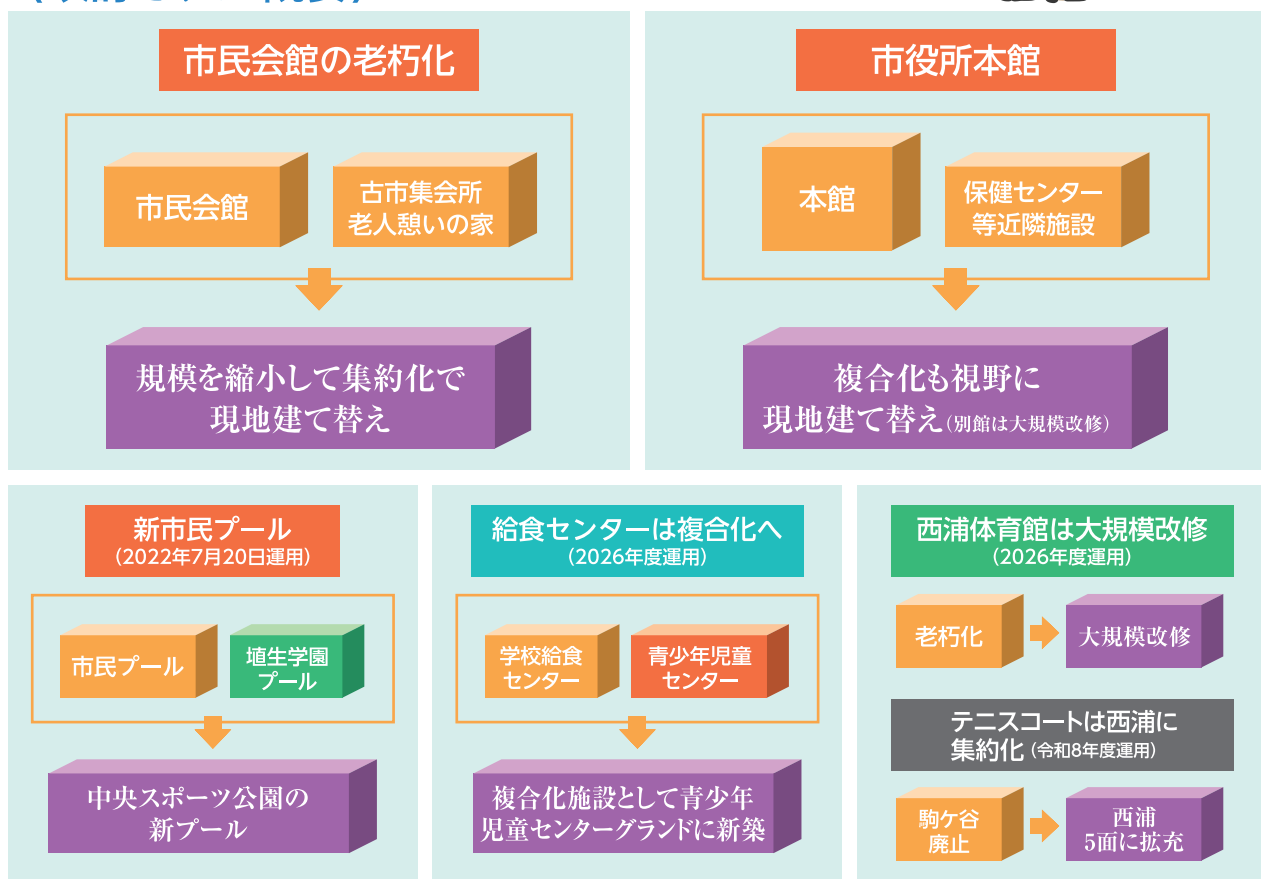
市民に計画を説明し、利用者の声を取り入れる仕組みづくりを!



第1期アクションプランとは

公共施設等総合管理計画は、2015年から40年間で老朽化問題に直面している公共施設やインフラ施設の維持管理などの指針を定めるものです。本市は、この40年間で人口が20%減少することから公共施設の床面積の総面積も20%縮減することを目標としています。計画に向けての第1期アクションプランは、2017年度から2026年度までの10年間の計画ですが、ずれが生じたため2021年12月に改訂がされました。

〈改訂された概要〉



利用者の声を生かした公共施設に

第1期アクションプランの10年間は年間およそ22億円かけて、老朽化が進む施設を大規模改修や新築に取り組んでいきます。その中には市役所庁舎や市民会館など多くの市民が利用する施設も対象となっています。しかしこの間、十分な議論や市民の意見を聞く場も持たずに、市民プールが屋内から屋外への見直しや、公立幼稚園の廃園が拙速に進められています。日本共産党は、市民や利用者の意見を聞く場や議論する場を設け、その進捗状況を明らかにして進めるべきと提案しています。

市民の声に反して クリーンピア21の廃止条例 可決 市としての健康増進が今後の課題に

市民の健康維持に寄与してきた「クリーンピア21」を2023年3月31日で廃止する「廃止条例案」が組合議会に上程されました。継続してほしいという市民の声に答えていないことや、改修しないと存続できないことをもっと早く知らせることはできなかったのかなどの質問が出されました。日本共産党市会議員団は、3月羽曳野市議会でも施設の継続を求める要望を出してきましたが、環境事業組合議会では賛成多数で可決されました。



5市2町1村の消防組織の一体化(広域化)が決定

日本共産党市会議員団は、①議会や市民に十分な論議を経していないこと ②今でも充足していない職員が増員されないこと ③身近な声を反映できない組織になるなどの理由から消防議会でも、羽曳野市議会でも広域化予算に反対してきました。しかし、羽曳野市・柏原市・藤井寺市・富田林市(太子町・河南町・千早赤阪村)・河内長野市の議会では、広域化の予算が賛成多数で可決されました。2024年度から5市2町1村の組織を一体化するため、大阪南消防広域協議会を設立して体制づくりを進めていくということですが、消防力の向上のためにも協議会の開示と市民への説明を求めました。



